

国立病院機構熊本医療センター

No.217



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519



医学生のための

臨床研修医説明会が開催されました

6月6日(土)の午後に、医学生を対象とした臨床研修説明会が開催されました。本年は天候にも恵まれ、九州外も含めて8つの大学から計35名の医学生の参加がありました。まず河野院長から挨拶があり、その後高橋副院長による病院の概要、芳賀臨床研究部長による国立病院機構の取り組み、大塚教育研修部長による当院の臨床研修プログラム、和田研修医による当院における臨床研修についての説明がありました。ホールでの説明の後は4班に分かれて、病院見学(救急外来・救命病棟・医局・高機能シミュレーターによる実習デモ)を行いました。

見学後は、当院の特徴を魅力的に表現したポスターが掲示された会場で軽食を取りながら指導医や研修医との意見交換会を行いました。意見交換会では各科の代表の先生から、それぞれの診療科の特徴や先輩としての進路のアドバイスを話していただきました。説明

会に参加して医学生は当院での研修に強い期待を抱いているようでした。最後に片淵副院長の挨拶で説明会を終了しました。今回の参加者が、来年度は当院と一緒に診療が出来ます様には是非とも先生方のお力添えを宜しくお願いいたします。(教育研修科長 豊永哲至)



高機能シミュレーターによる実習デモの様子

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「最後の砦」

熊本循環器科病院

院長 嶋田 三輝男



当院は1985年4月に開院致しまして、今年無事に30周年を迎えました、160床の病院で、一般病棟41床、医療療養病棟119床の構成です。開院当初は他の公立病院にもなかったMRIやCRを備え、救急病院として活動しておりました。しかし日本の医療体制が激しく変化する中で現在は主に公的病院の後方支援病院として存在しているつもりです。入院患

者の大部分は他病院から御紹介頂いた方々です。もちろん紹介頂くだけでなく専門外、あるいは専門でも今はPCI等やっておりませんので多くの患者さんを紹介させて頂いております。熊本医療センターに名前が変わるずっと以前から血液疾患は国立と決めておりました。20年以上前だと思えますが患者さんのデータ（骨髄穿刺のプレパラートだったかもしれません）を当院の職員が間違った場所に届けてしまいまして清川哲志先生に大変な御迷惑をおかけしたことがありましたが、怒りもせず9時前まで何時間も待って頂いて非常に恐縮した覚えがございます。各種の血液疾患の患者さんを紹介し、適切な診断と治療をして頂いております。あの温厚な御人柄に大変助けられております。また副院長の高橋毅先生にも大変御世話になっております。たまたま代謝内科の後輩ということもございまして、当院で診ていては患者さんの利益にならないと判断したケース（要するに手に負えないということです）では快く転院を引き受けて頂いております。今までのくまびょうNEWSを読んでおられますと別に後輩でなくても快く引き受けて頂けると思えますが、あのソフトな語り口を電話で聞きますとホッと致します。

月並な表現で申し訳ありませんが皆様お体に気を付けて頂いて私達民間病院の最後の砦であり続けて下さい。

熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学分野 倉津純一 教授による特別講演が行われました

平成27年6月3日（水）に、「極めて治療困難な脳腫瘍：グリオーマの克服に向けて」と題して、熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学分野教授 倉津純一先生による特別講演が行われました。鹿児島大学教授にご在籍中また熊本大学教授である現在、悪性脳腫瘍特に神経膠芽腫に関する研究治療の第一人者としてご活躍されていますが、来年のご退官を前に一部を総括しお話されました。神経膠芽腫の治療成績について、最前を走る熊大ですら5年生存率5%、平均生存期間15ヵ月と惨憺たる状況であり、約40年前の熊大脳外科ご入局時と大して変わらない成績であること、僅かに30日間のみADLを延長し得たことを、やや無力感を漂わせながらお話されました。その他、グリオーマの克服に向けて幹細胞に対する多方面からのアプローチが重要であること、また、通常は炎症時にみられる筈のマクロファージ細胞が膠芽腫組織に浸潤することをヒントに、膠芽腫細胞がMCP-1蛋白（monocyte chemoattractant protein、単球活性化因子）を産生することを発見されたことなど難解な内容をかみ砕い



ご講演される倉津純一教授

て講演されました。特に、この発見にまつわりノースカロライナ大学留学前後にみられた人間模様や糖尿病による脳腫瘍発生のリスク軽減について、いろいろエピソードを交え面白可笑しく聴衆を退屈させないなど、倉津教授のお人柄を偲べる講演会でした。ご多忙にもかかわらず、講演会には多数ご聴講を頂き、盛会のうちを終えましたことを厚くお礼申し上げます。

（脳神経外科・教育研修部長 大塚忠弘）

病棟紹介

7 南病棟



7南病棟スタッフ

こんにちは、今回は7階南病棟を紹介します。

7階南病棟は、精神科リエゾン50床の病棟です。保護室3室、個室3床を有し、精神科病棟としては、病院の最上階である7階にあり、窓からの眺めは絶景で熊本城をはじめとする熊本市内の展望、遠くは阿蘇の山並みが見える静かな環境です。

当病棟は、精神疾患と身体合併症の患者さまを受け入れています。精神科は長期入院のイメージがあると思いますが、平成26年度の平均在院日数は16.8日と短く、また手術件数は年間164件、月平均13件でした。外科、整形外科、眼科、泌尿器科をはじめとして、全診療科の術前・術後のケアにも対応しています。透析看護やがんの化学療法・放射線療法・緩和医療など、いろいろな治療が効果的に行えるようにチーム医療に積極的に取り組んでいます。

患者さまの中には、意思の疎通や伝達が困難な方、指示動作がうまく伝わらない方も多いため、患者さまの人権や倫理面を配慮した合同カンファレンスを定期的に行い、医師、看護師、臨床心理士やPSW（精神保健福祉士）を含めた医療スタッフが情報を共有し、安全なケアが提供できるように努力しています。また、近年、社会生活の中でのストレスから自殺企図の経過をたどり、こころに深い悩みを抱える若年層のこころのケアも必要となってきています。臨床心理士を中心に児童心理の知識を深め、「傾聴と共感」の対話技術を向上させて温かい支援ができるように日々頑張っています。

（7南病棟師長 清田峰子）



精神科医師・PSW（精神保健福祉士）と



他職種での合同カンファレンスの様子

2015 診療科紹介(83) 泌尿器科



部長

菊川 浩明 (きくかわ ひろあき)

泌尿器科悪性腫瘍(膀胱癌・前立腺癌・腎臓癌など)、泌尿器科一般、救急疾患(尿路外傷・重症感染症)、神経因性膀胱、排尿障害、鏡視下手術、婦人泌尿器科(尿失禁、骨盤臓器脱)

日本泌尿器科学会認定指導医・専門医、日本泌尿器科学会評議員、身体障害者福祉法認定医(膀胱)、日本がん治療認定医機構暫定教育医、熊本大学医学部臨床教授、熊本大学大学院医学博士



医長

陣内 良映 (じんのうち よしてろ)

泌尿器科悪性腫瘍(膀胱癌・前立腺癌・腎臓癌など)、神経因性膀胱、排尿障害、泌尿器科一般、救急疾患、鏡視下手術、婦人泌尿器科(尿失禁、骨盤臓器脱)

日本泌尿器科学会認定医指導医・専門医、日本泌尿器科学会評議員、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、熊本大学大学院医学博士



医長

前田 喜寛 (まえだ よしひろ)

泌尿器科悪性腫瘍(腎細胞癌)、神経因性膀胱、排尿障害、泌尿器科一般

日本泌尿器科学会認定医指導医・専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

診療の内容と特色

尿潜血精査から尿路・性器悪性腫瘍、小児泌尿器科、尿失禁・下部尿路機能障害まで泌尿器科全般を行っています。特に、尿路性器腫瘍(腎細胞癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌)の治療には力を入れており、膀胱癌を中心とした尿路上皮腫瘍は症例数、手術数においても十分な実績及び経験を積んでいます。また平成24年1月より前立腺肥大症に対してグリーンライトレーザーによる経尿道的前立腺蒸散術(PVP)を、平成26年3月より放射線科の協力のもと、前立腺癌に対して密封小線源治療(ブラキセラピー)を開始しています。平成27年1月からはホルミウムレーザー装置を導入し、尿管結石の治療も可能になりました。日本泌尿器科学会認定指導施設の認定を受けています。

診療実績

病棟は常時30~40名の入院があります。平成26年度の新入院患者数は1140名でした。平均在院日数も11日前後です。外来は昨年929名の新患紹介・受診がありました。尿路悪性腫瘍を中心に診療をおこなっており、特に腎臓癌、膀胱癌、前



医師

二口 芳樹 (ふたくち よしき)

泌尿器科一般



医師

山本 結美 (やまもと ゆうみ)

泌尿器科一般、女性泌尿器科



医師

鮫島 智洋 (さめじま ともひろ)

泌尿器科一般



医師

上園 英太 (うえその えいた)

泌尿器科一般



医師

土岐 直隆 (とき なおたか)

泌尿器科一般、神経因性膀胱

日本泌尿器科学会認定指導医・専門医、日本泌尿器科学会評議員

立腺癌など多くの症例を紹介頂いています。膀胱癌症例の約8割は内視鏡下切除(TUR-BT)にて治癒可能です。内視鏡的治療が困難な浸潤性膀胱癌で膀胱温存を目指す場合は、放射線科の協力で抗癌剤動脈内注入療法を施行後、内視鏡切除術・放射線照射を追加します。膀胱全摘が必要な場合は、尿路変更としてストーマ(尿袋)の要らない自然排尿型新膀胱形成術(Studer変法)も取り入れ、個々の症例に応じた治療を行っています。

過去10年間に約200例の膀胱全摘術を経験しており、症例数としては国内トップレベルです。

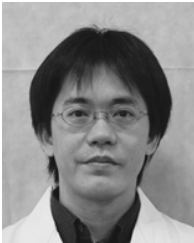
平成13年に開始した鏡視下副腎・腎・尿管手術も150例に達しました。増加の著しい前立腺癌に対しては、まず1泊入院で針生検を行い外来で病期診断を行った後、治療方針を決定します。ホルモン治療や手術療法、放射線療法(土ブラキセラピー)など、総合病院の特性を活かした治療選択枝を揃え対応しています。特にブラキセラピーは患者様の希望も多く、現在週1例のペースで施行し、1年間で50名ほどの治療経験をえました。現時点での再発症例はありませんが、今後も厳重に経過を診て治療経験を積み重ねていきたいと考えています。診断の付きにくい腎盂・尿管腫瘍に対しては積極的に尿管ファイバーを施行し、可能な症例については腎臓温存術も行っています。女性の尿失禁手術(TVT、TOT手術)もこれまで45例ほど行い、一昨年開始した骨盤臓器脱手術(TVM)も40例ほど経験し良好な成績をあげています。平成24年1月に全国に先駆け導入したグリーンライトレーザーによる経尿道的前立腺蒸散術(PVP)は出血もほとんどないため1週間弱の入院で治療可能です。現在までに250例程の患者様がグリーンライトレーザー治療を受けられました。

また、平成27年1月よりホルミウムレーザーを新たに導入し、尿管結石の治療も可能になりました。主に体外衝撃波治療で砕石できなかった患者様や全身状態が悪いリスクの高い患者様などを対象にしています。通常の尿路結石患者様は病診連携を通して登録医の先生方に紹介しています。

平成26年度の麻酔科管理総手術件数は507件でした。

最近のトピックス

「へその緒」を流れる血の力

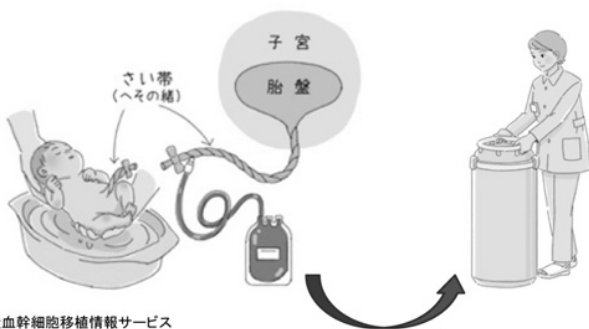


血液内科医長
河北 敏郎

急性白血病は治療の進歩によって不治の病ではなくなりましたが、十分な化学療法が行える患者様でも約半数が病気により命を落とされてしまう、やっかいな疾患であることに変わりはありません。同種造血幹細胞移植（同種移植）は強力な化学療法や放射線により正常な血液細胞と白血病細胞を「焼き尽くした」後に、他人から血液細胞の源（造血幹細胞）をもらう治療法で、難治性血液疾患の方々にとって唯一の生きる道となっています。

主治医として移植を計画した際に最初に直面する課題は誰から造血幹細胞をもらうか、ということです。白血球の血液型であるHLAが一致した兄弟からの移植が理想的ですが、血縁ドナーが得られる確率は1/3程度です。より多くの方が移植を選択できるよう、1980年代～90年代にかけて世界各国で骨髄バンクが作られました。さらに、日本の中畑博士によって「へその緒」の中を流れる臍帯血に造血幹細胞が豊富に含まれることが報告されると、1988年にフランスで世界初の臍帯血移植が、1998年には本邦初の成人に対する臍帯血移植が当院で行われました。臍帯血バンクの充実とともにこれまでドナーが得られなかった方の多くで臍帯血移植が可能となり、今では国内の同種移植のうち血縁、骨髄バンク、臍帯血がおおよそ約1/3ずつを占めるに至っています。

移植に用いる臍帯血は児の出産後、産婦人科の先生方の手で採取され臍帯血バンクに保存されます（図1）。



(造血幹細胞移植情報サービス
<http://www.bmdc.jrc.or.jp/generalpublic/saitai.html>)

図1 臍帯血の保存

産後の胎盤から採取するためドナーの負担がなく、患者側の状況に応じたタイミングで移植が可能な点が大きなメリットです。また、ドナーが0歳児のため成人ドナーと比較して順応性が高く（免疫寛容）、HLAが不一致でも問題なく移植を行うことができます。一方で、骨髄移植と比較して血球の回復が遅く感染症のリスクが高いこと、拒絶反応（移植変対宿主病）が独特の経過を辿ることなどの問題点があり、その特徴に応じた管理をしなければ移植関連死亡が増加してしまいます。

当院は1990年代より県内唯一の骨髄移植施設として600例以上の同種移植を行ってきました。2013年以降は積極的に臍帯血移植に取り組んでおり、2014年は同種移植49例中、23例が臍帯血移植でした（図2）。多くの例が移植を行わなければ1～2年以内に命を落としていたと思われる病状でしたが、合併症管理の適正化によって治療成績は向上しており（図3）、比較的高齢とされる56歳～69歳の患者様に対しても同等の治療成績が得られています。

同種移植の効果は強力ですが、移植自体で20%程度が命を落とすという極めて危険な治療でもあります。移植を行ったすべての方に生きて治っていただくという気持ちでご家族、看護師、薬剤師、歯科をはじめとする他診療科医師と共に格闘する日々です。特に若いながら必死で病棟を支えてくれる看護師の皆さん方に心から感謝の意を表しこの稿を終えます。

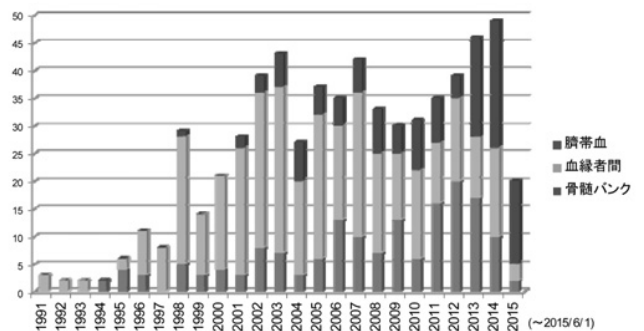


図2 熊本医療センターにおける同種移植ドナー別推移

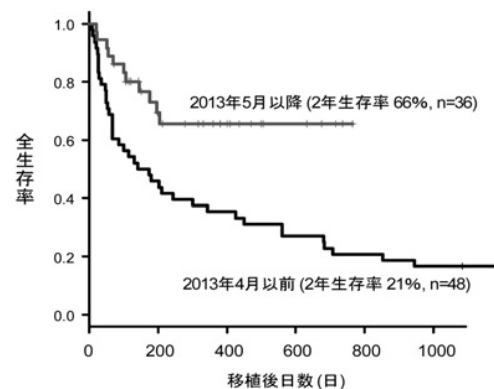


図3 当院における臍帯血移植(初回)の成績 (～2015/6/1)

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ94回

業務効率化を目的とした手術室払い出し薬品のセット化による効果

薬剤科 濱崎 翔平

【目的】

薬剤科業務の効率化並びに適正在庫の推進は、病院経営に対して貢献すべき薬剤科の重要なテーマです。今回、薬剤科では手術室の医薬品管理に関する手順を改訂し、改訂前後における払い出しに係る時間、在庫金額及び取り揃えミスについて評価したので報告します。

【方法】

1. セット化払い出し法の構築

従来、薬剤科から手術室への払い出しは手術箋を基に集計した後、1日1回実施してきましたが、この運用では集計に時間を要するとともに誤記入や払い出し薬品のミスも散見されました。さらに手術室における医薬品の管理体制も不十分となり、在庫数、金額も増大していました。また、看護師にとっても使用した医薬品を一症例毎に手術箋に記載するなど非効率な運用でした。そこで、医師、看護師及び薬剤師による協議の結果、使用頻度の高い薬剤を選定し、注射カートのトレイに一施用毎にセット化することとしました。カートは計12症例分の輸液セットを搭載して、朝、夕の2回払い出すこととしました。

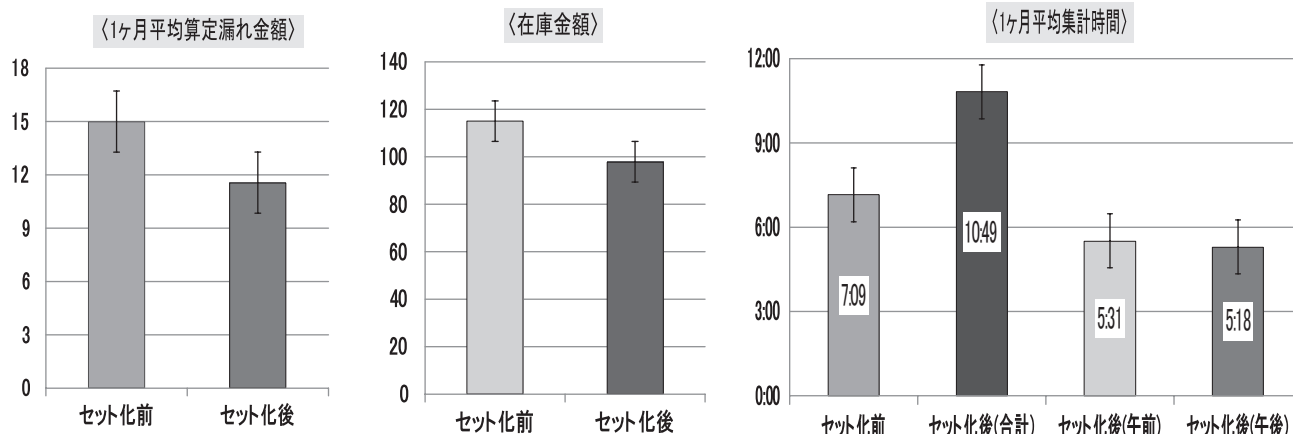
2. セット化による効果の検証

業務効率に及ぼす効果は、使用された医薬品の集計から補充までの時間を従来法と比較・検討しました。さらに、看護師にアンケートを実施しました。在庫金額への効果については、従来法とセット化後の医薬品室の在庫金額を比較しました。

【結果】

業務効率に及ぼす効果では、1回の集計・払い出し時間が短縮され、セット化によって手術箋への誤記入や払い出しミスの減少、薬剤管理の容易化が実現できました。さらにアンケート結果より、他職種の業務効率化も達成されました。在庫金額への影響は、セット化によって医薬品室の在庫が16品目削除され、約20万円の減額が達成できました。

施用毎にセット化することで、看護師はその都度、医薬品を取りに行く手間が省かれ業務の効率化に繋がったと考えられます。またセット化により、使用された医薬品と手術箋の記載の確認が容易となったこと、薬剤師も確認することでダブルチェック体制が確立し、算定漏れの減少も期待されました。今後は人工心肺などの特殊な手術に対する医薬品のセット化を検討していきたいと思います。



研修医レポート

臨床研修医

しらかみ ちか
白神 慈



初めまして。研修医1年目の白神慈と申します。福岡県出身で熊本大学医学部を卒業し、4月より国立病院機構熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修が開始し、学生の頃には抱かなかった社会人としての責任感を感じる日々です。研修が始まって2ヶ月が経ちましたが、未だに慣れないことや初めてのことも多く、周りのたくさんの方々には迷惑をおかけしておりますが、その方々のおかげで日々の研修生活を有意義に過ごすことができます。

研修は外科からのスタートでした。一番初めの科ということで、外科の研修という以前に、電子カルテの

使い方、検査のオーダーの仕方など病院で働くための準備から始めざるを得ず、正直、それらに慣れるまでにかかった期間がもったいなく感じております。しかし、実際は慣れることにも、仕事を覚えることにも必死で、気が付けば時間が経ってしまっているという状況でした。あっという間に時間が経っていたせいか、外科での研修は毎日楽しく充実していたという印象しかありません。基本的な手技を学ばせていただいたり、術後の輸液管理なども経験させていただいたり、忙しくも充実した約2ヶ月になりました。

現在は、まだ始まったばかりですが、循環器内科で研修をさせていただいており、前月とはまた違う環境に際して個人的にどたばたとした毎日になっております。環境ががらりと変わりましたが、早く新しい環境に慣れて、より多くのことを日々吸収していきたいと思っております。

研修はまだまだ始まったばかりですが、毎日少しずつ自分にできることが増えていくことに喜びを感じており、さらには自分でも成長を感じられるようになりたいと思っております。今後ご指導のほどよろしくお願い致します。

臨床研修医

おおくぼ ゆうま
大久保 侑馬



こんにちは。研修1年目の大久保 侑馬と申します。長崎大学医学部卒業し、4月より熊本医療センターで初期研修をさせていただいております。研修がスタートしてから3ヶ月が経ちましたが、まだまだ病院のシステムに慣れることができず、指導医の先生方やスタッフの方々にご迷惑をおかけしながらも懸命に医療に取り組んでおります。

研修は消化器内科からスタートし、現在は循環器内科にお世話になっております。

最初に回った消化器内科では、カルテの使い方や薬の処方、検査オーダーなどまったくわからずアタフタしているなか指導医の先生を含め、研修医の先輩方の心優しい指導のおかげで何とかスタートラインに乗せることができました。

医療の面では急性膵炎の治療、食道静脈瘤破裂の管理、末期がんの疼痛管理やその患者さんへのかかわり方など学ばせていただきました。また、手技に関しても腹部エコーを毎日2～3人ほど経験させていただいた他、腹水穿刺や胃管挿入など指導していただき学ぶことができました。

現在の循環器内科は、まだ1週間と少ししかおらず始まったばかりですが、すでに急性心筋梗塞のfirst touchからカテーテル治療まで携わることができましたし、心不全の対応等経験しています。まだまだ、循環器の知識も不足しており指導医の先生にご迷惑をおかけしておりますが残りの期間、1つ1つ確実に自分のものにしていきたいと考えております。

始まったばかりですが、研修に充実感を感じながらも山のように湧き出てくる勉強すべきことに追われる日々を過ごしております。これから先も様々な科でご迷惑をおかけすることと思いますが、お役に立てるよう努力いたしますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

研修のご案内

第86回 特別講演（無料）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成27年7月1日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長

片淵 茂

「心臓血管外科最前線」

熊本大学大学院生命科学研究部心臓血管外科学教授

福井寿啓 先生

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) 096-353-3515(直通)

第53回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成27年7月4日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：西整形外科医院 院長

西 芳徳 先生

演題：「変形性股関節症の診断と治療のup to date」

1. 変形性股関節症のトピックについて -大腿骨寛骨臼インピンジメント-

国立病院機構熊本医療センター 整形外科医長

平井奉博

2. 寛骨臼回転骨切り術について

熊本市立熊本市市民病院整形外科医長

渡邊弘之 先生

3. 最小侵襲の人工股関節置換術を目指して -完全筋腱温存手術-

国立病院機構熊本医療センター 整形外科医長

福元哲也

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第198回 月曜会（無料）

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成27年7月13日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 家族内に複数の透析者がいる70代女性」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎

「第2症例 呼吸器内科症例」

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 名村 亮

2. ミニレクチャー「がん疼痛の緩和」

国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 磯部博隆

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第119回 総合症例検討会（CPC）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成27年7月15日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『呼吸困難と下腿浮腫』

(80歳代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長

名村 亮

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山寿彦

「高血圧と心不全にて前医外来通院中であった。呼吸困難と下腿浮腫が出現し、酸素投与と利尿剤でも改善せず当院紹介となった」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

第166回 三木会（無料）

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成27年7月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「救急ヘリ搬送となった糖尿病ケトアシドーシスの一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科

坂本淳、西山景子、大津可絵、坂本和香奈、松山利奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至

2. 「認知症を持つ高血糖高浸透圧症候群の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科

西山景子、坂本淳、大津可絵、坂本和香奈、松山利奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501(代表) 内線5796

2015年 研修日程表 7月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

7月	研修センターホール	研修室
1日(水)	19:00~20:30 第86回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「心臓血管外科最前線」 熊本大学大学院生命科学研究部心臓血管外科学教授 福井寿啓	
2日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「輸血の実際」 国立病院機構熊本医療センター臨床検査科長 武本重毅	
3日(金)		
4日(土)	15:00~17:30 第53回 症状・疾患別シリーズ 「変形性股関節症の診断と治療のup to date」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 西整形外科医院 院長 西芳徳 1. 変形性股関節症のトピックについて -大腿骨寛骨臼インピンジメント- 国立病院機構熊本医療センター整形外科医長 平井奉博 2. 寛骨臼回転骨切り術について 熊本市立熊本市市民病院整形外科医長 渡邊弘之 3. 最小侵襲の人工股関節置換術を目指して -完全筋腱温存手術- 国立病院機構熊本医療センター整形外科医長 福元哲也	
5日(日)		
6日(月)		
7日(火)		
8日(水)	18:00~19:30 第93回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
9日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「躯幹部救急疾患のCT」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 根岸孝典 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	
10日(金)		
11日(土)	9:00~16:20 第30回 ナースのための人工呼吸セミナー 1. 呼吸生理の知識と血液ガスの見方 2. 人工呼吸を要する各種病態について(急性および慢性疾患) 3. ナースが知っておかなければならない各種換気モードと特徴について 4. 一歩すすんだ呼吸管理法 ~医療安全・感染制御・PADマネジメントの観点から~	琉球大学大学院医学研究科救急医学教授 久木田 一朗 久留米大学医学部医学科救急医学准教授 高須 修 国立病院機構熊本医療センター 副院長/救命救急・集中治療部長 高橋 毅 山口大学大学院医学系研究科救急・総合診療医学教授 鶴田良介
12日(日)		
13日(月)	19:00~20:30 第198回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
14日(火)		
15日(水)	19:00~20:30 第119回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「呼吸困難と下腿浮腫」	
16日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「頭部救急疾患のCT・MRI」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 伊藤加奈子 14:00~15:00 第28回 市民公開講座 「食事で予防 生活習慣病」 国立病院機構熊本医療センター栄養管理室長 松永直子	19:00~20:45 第166回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
17日(金)		
18日(土)	14:00~16:00 第262回 熊本県滅菌消毒法講座 「医療機器の進化に対応する高圧蒸気滅菌の質の保証」	
19日(日)		
20日(月)		
21日(火)	19:30~20:30 第40回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「在宅歯科医療での嚥下障害をもつ方々への対応」 阿蘇きずな歯科医院 院長 我那覇生純	
22日(水)		
23日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「緊急放射線照射」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 富高悦司	
24日(金)		
25日(土)	9:00~17:00 第93回 救急蘇生法講座 ~二の丸ICLSコース~ 講師 国立病院機構熊本医療センター救命救急科医長 原田正公 ほか	
26日(日)		
27日(月)		
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
29日(水)		
30日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「抗菌薬の使い方」 国立病院機構熊本医療センター血液内科部長 日高道弘	
31日(金)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)